

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名

兵庫県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	三木市立三木中学校					
学 年	1年	2年	3年	障害児学級	計	教員数
学級数	4	4	4	2	14	27
生徒数	129	135	150	4	418	

研究の概要

1. 研究主題

- ・ 少人数授業などきめ細かな指導の推進

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1年生・数学
生徒の理解の状況に差が出やすい教科であり、基礎・基本の定着が重視される学年であるため。
- ・ 2年生・数学
生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。

(2) 年次ごとの計画

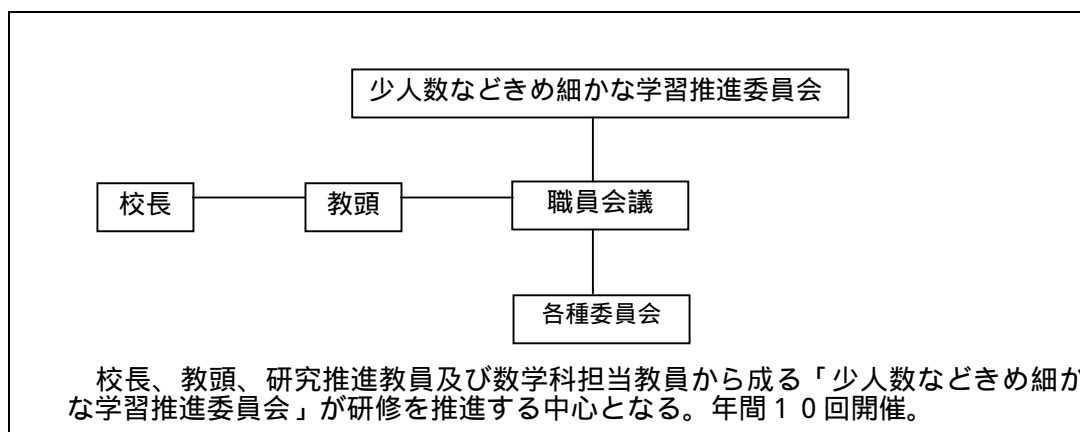
平成14年度	
--------	--

平成15年度	<p>テーマ「思考の過程を大切にする授業の創造」</p> <p>研究の見通し 学級を2分割した少人数指導等きめ細かな指導を展開し、基礎的・基本的内容の確実な定着を図ることにより、基礎学力及び関心意欲を高める。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業形態の工夫 ・ 課題学習に適する問題の発掘 ・ 班活動の効果的な活用 ・ 基礎・基本の定着度を図る評価方法の研究 ・ 先進校の視察 ・ 校内研修
--------	--

平成16年度	<p>テーマ「思考の過程を大切にする授業の創造」</p> <p>研究の見通し 結果を導くまでの過程を重視することにより、思考が深まるとともに、多様な考えが出、わかりやすい授業が創造できる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業形態の工夫 ・ 課題学習に適する問題の発掘 ・ 班活動の効果的な活用 ・ 基礎・基本の定着度を図る評価方法の研究
--------	--

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- ・ 少人数で学習することによって、生徒個々のつまづきを早期に発見でき、タイムリーな指導が可能になった。
- ・ 個々の生徒に関わる時間が多くなった。
- ・ 生徒の多様な考えを取り上げやすくなり、思考が深まった。

2. 今後の課題

- ・ 学習形態の工夫
- ・ 保護者への啓蒙
- ・ 基礎・基本の定着度を図る評価方法の研究

学力把握のための学校としての取組

- ・ 生徒向けアンケートの実施
調査の目的・・・意識調査をすることで、今後の指導に活かす。
実施内容・・・少人数学習に関する意識調査
時期・・・平成15年9月10日
- ・ 4月・9月・1月に学力確認テストを実施する。
- ・ 中間・期末テストを実施する。
- ・ 単元ごとに小テストを実施する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 校内研修会
日時 平成15年2月17日
対象 本校数学科教師
目的 少人数指導のあり方を研究する
講師 兵庫教育大学教授 崎谷真也 氏
- ・ 市内中学校数学科研修部会による授業研究会の実施

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | | |
|----------------------|------------|------------|----|-------|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 3学級以下 | 4～6学級 | | |
| | 7～9学級 | 10～12学級 | | |
| | 13～15学級 | 16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | 少人数指導 | T・Tによる指導 | | |
| | その他 | | | |
| 【研究教科】 | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 |
| | 外国語 | 音楽 | 美術 | 技術・家庭 |
| | 保健体育 | その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | 有 | 無 | |